令和６年度上半期の豚熱免疫付与状況確認検査結果中間報告

今年度４月から本検査にご協力いただきましてありがとうございました。７月末までに６９農場２,８４６頭の検査を実施しました。

管内農場の豚熱ワクチン平均接種日齢は２０日齢（５～５０日齢）で離乳時までの接種が７９.７％となっています。接種適期は移行抗体防御率が８０％以上、ワクチン有効率が８０％以上期待できる時期で、管内農場の母豚中和抗体検査結果から現在は概ね７～２１日齢ですので、大半の農場が適期に接種できています。

ワクチン抗体による免疫付与率結果は下表のとおりです。

エライザ検査で８０％を下回った群については、陰性検体について中和抗体検査（抗体価１倍以上を陽性と判定）を実施し、免疫付与を判断しています。

接種適期である離乳時までの接種豚では、全体平均で７０.１％、１２０日齢で６６.５％、１５０日齢で７０.６％、出荷豚（１５０日齢以降）で７２.０％と日齢が進む毎に付与率が上昇し８０％には満たないものの付与状況は良好でした。

打ち遅れ気味の離乳舎での接種豚では、全体平均で８５.９％、１２０日齢で９０.２％、１５０日齢で８４.２％、出荷豚（１５０日齢以降）で８２.７％でした。全群８０％を超えてワクチンによる免疫付与状況は良好でした。ただ、良すぎる結果はワクチン接種時の移行抗体価が非常に低くなっていることを表していて、ワクチン接種前時期の群の防御が８０％を下回り無防備な状況ですので、接種の前倒しが必要です。

母豚の抗体が低くなっている状況で移行抗体によるワクチンブレイクは考えにくいため、打ち遅れがないように気を付けてください。免疫付与率が８０％に満たない理由は、PRRS 早期感染等の不調豚群では付与率が低くなる傾向があり、また、出荷が早く日齢の進んだ豚での検査ができない農場もあり、ワクチン抗体が上がりきる前の検査となっていることも一因ではあると考えます。

豚熱ワクチンは生ワクチンですので、保冷管理を徹底し、消毒薬や水道水の塩素による不活化に注意が必要です。哺乳豚への接種は針を１０～１３ｍｍの長さとし、太さはできる限り細い規格のものを使用してください。１頭ずつ抱っこ保定し、確実に１ｍｌが筋肉内に入るように、接種前に注射器の目盛りを確認し、接種部位からワクチンが漏れた場合はもう一度、接種してください。

日齢	全体平均		１２０日齢		１５０日齢		出荷豚	
検査方法	ｴﾗｲｻﾞ	中和抗体	ｴﾗｲｻﾞ	中和抗体	ｴﾗｲｻﾞ	中和抗体	ｴﾗｲｻﾞ	中和抗体
全農場	59.6%	73.6%	54.8%	71.6%	61.8%	73.8%	61.5%	74.5%
離乳時まで接種	54.3%	70.1%	46.0%	66.5%	57.3%	70.6%	58.0%	72.0%
離乳舎での接種	78.2%	85.9%	85.9%	90.2%	75.7%	84.2%	72.5%	82.7%